

甲状腺超音波診断

序説

編集 佐竹弘子 名古屋大学医学部附属病院 放射線部

CTやMRIの読影で、甲状腺に偶発的に結節性病変を認めたり、吸収値やサイズの異常を認めたりすることは日常的に遭遇することである。また、PET検査においても、甲状腺に異常所見が検出されることがときに認められる。しかし、これらの検査では、病変の診断には至らないことが多く、その対応に迷うことも現実かと思われる。超音波検査は甲状腺疾患の画像検査では第一選択の検査であり、CTやMRIの読影レポートにおいても、甲状腺の病変に対して、超音波検査の推奨を記載することはよくある。しかし、一方では、放射線科医が甲状腺の超音波検査を行っている施設は多くはなく、甲状腺の病変が実際に臨床的にどのように取り扱われているか、超音波検査を含め診断がどのように進められているのか会得する機会が少ないのが現状かと思われる。

今回の特集では、臨床のスペシャリストの先生から、甲状腺の結節について、現状どのようなコンセンサスが得られ、診療においてどのように扱われているか提示していただき、放射線科医からは、代表的な甲状腺疾患について超音波所見の概説を行う。これらをとおして、甲状腺の画像診断について理解を深めていただけたらと考える。